

# 釜石市防災市民憲章の取り組みについて

防災市民憲章制定市民会議  
議長 丸木 久忠

## 明治三陸地震津波

- ・ 市内犠牲者：6,687人(全人口12,489人)

## 昭和三陸地震津波

- ・ 市内犠牲者：164人(行方不明240人)(全人口31,637人)

先人が  
残した教訓



被災地に伝わる  
津波記念碑 など



明治丙申海嘯記念之像①  
大只越町石応禪寺境内 明治35



津波記念碑  
片岸町室浜 昭和8



昭和八年津波記念碑  
本郷県道中央道路脇 昭和9

震災の悲劇を二度と繰り返さないため  
釜石の地で安全な暮らしを続けるため



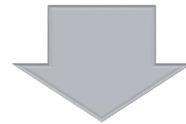
震災から学んだ教訓を生かす



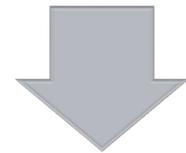
みんなで誓い合う  
市民が災害に対して主体的に取り組む行動の道しるべ

## 意見交換会の開催

参加：これまで市の検証作業に携わってきた方（東日本大震災検証委員など）  
防災市民憲章の制定に向けた市の取り組みを説明



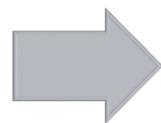
市民が主体となって防災市民憲章の素案づくりに取り組む



釜石市防災市民憲章制定市民会議の発足

# 市民会議の活動

これまでの教訓のまとめなどを  
振り返りながら



防災市民憲章を伝えたい相手は誰か  
何年先まで伝えたいのか  
盛り込みたい言葉・表現方法

ワーク  
ショップ

災害から未来の命を守るワークショップ

- H30.2.19～3.19 市内9会場 参加:219名  
小中学校ワークショップ
- 東中/鶴住居小 参加:117名/53名

フォー  
ラム

みんなで作ろう防災市民憲章フォーラム

- H30.4.21 釜石情報交流センター 参加:75名
- ワークショップの活動報告/市民ディスカッション

素案  
づくり

幹事会・代表幹事会

市長  
提言

防災市民憲章草案の提言

- H30.6.22



題名  
副題

釜石市防災市民憲章  
命を守る

前文

東日本大震災の多大な犠牲をもとに市民一人一人が体得した教訓

今後のあらゆる災害から命を守ることに生かす

市民総意の誓い

本文

備える

逃げる

戻らない

語り継ぐ

結文

釜石の地で共に生きる決意

## 釜石市防災市民憲章 命を守る

釜石市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、千人を超える尊い命を喪った。

その悲しみが、癒えることは決してない。

しかし、古来より、先人たちが、度重なる災害や戦災をたくましく乗り越えてきたように、今、私たちは、ふるさと復興への途を歩み続けている。

自然は恵みをもたらし、ときには奪う。

海、山川と共に生き、その豊かさを享受してきたこの地で安全に暮らし続けていくためには、また起こるであろうあらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。

未来の命を守るために、私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。

平成31年3月11日制定

## 備える

災害は ときと場所を選ばない  
避難訓練が 命を守る

## 逃げる

何度でも ひとりでも 安全な場所に いちはやく  
その勇気は ほかの命も救う

## 戻らない

一度逃げたら 戻らない 戻させない  
その決断が 命をつなぐ

## 語り継ぐ

子どもたちに 自然と共に在るすべての人に  
震災から学んだ生き抜く知恵を 語り継ぐ

私たちは生きる。

かけがえのないふるさと釜石に、共に生きる

# 「大震災かまいしの伝承者」制度

東日本大震災

- 被災体験
- 復旧・復興の取り組み
- 震災からの教訓



市民一人ひとりが  
大震災を語り継ぐ



基礎研修  
ステップアップ研修  
伝承者証の発行

災害から身を守る意識を高める。

大震災の出来事を正確に伝える。

中学生から高齢者まで69名が登録 (R311.5現在)



ラグビーワールドカップ  
会場での伝承活動

